

夏期学級プログラム例

大本青年部事務局

1、プログラムを作る前に

夏期学級の意義を一言でいうと少年たちの「神性の開発」にあります。私たち人間が、本来神さまからいただいている、美しく素直な心「神性」を芽生えさせるプログラムが理想的です。

少年たちは、礼拝にはじまり礼拝に終わる団体生活の中で、寝食を共にし、その中で自然の恵みや人へ感謝のこころを育みます。からだところがより良い方向へ導かれるよう、プログラムを組み立てていきます。

2、プログラム四大要素

最初に【運営面】の時間を確保して、期間・人数（スタッフ）・会場など条件と照らしながら【講話】【実習】【レクリエーション】などを組み立てます。

【運営面】

朝夕拝・ラジオ体操・食事・起床・就寝・開催奉告祭・開講式・班分け・班別話し合い・記念撮影・班別ミーティング・感想文書き・閉講式など

【講話】

神さまについて・大本の歴史・目に見えない世界（霊界）・エスペラント・歴代教主さまについて・ご先祖さまについてなど

【実習】

お礼拝の仕方・お給仕の仕方・玉串垂手の作り方・玉串捧奠の仕方・愛善歌・鎮魂・朗詠・祭式・茶道・冠沓句・工作・陶芸・絵画・献勞奉仕・神劇・紙芝居・輪読会・みろく踊りなど

【レクリエーション】

海水浴・プール・登山・オリエンテーリング・懇親会（ゲーム）・スタンプ・キャンプファイヤー・飯盒炊さんなど

3、その他（ご参考）

講話形式のプログラムは、特に小学生を対象とする場合、1講座＝40分から45分が目安です。

プログラムは参加者（＝少年）に分かりやすい方が良いでしょう。ネーミングにも工夫しましょう。(例)「霊界について」→「目に見えないものってナニ？」

大本本部が制作したビデオ「八兵衛と六助」「アリと神さま」などを講座で用いると、講話の導入として分かりやすいかと思えます。

夏期学級期間中のみならず、学んだことは家に帰ってからも実践できるように指導することも大切です。

「八兵衛と六助」

「アリと神さま」

「汗壺」

「ぽんぽん山」

「猪と豚」